

地域をはぐくむ祭礼文化の再発見

～祭礼調査から歴史まちづくりへ～

地域共創学部
地域づくり学科
教授

末松 剛



研究シーズの紹介

本研究は、歴史学における儀礼研究の手法を活用して、地域の祭礼を地域をはぐくむ祭礼文化と捉え直し、地域文化を再発見することを通じて「歴史まちづくり」に貢献することを目的としています。

従来、このような活動は専門家による文化財指定や市町村史編纂事業として行われてきましたが、より直接的に地域に還元し、子どもから大人までそれぞれの需要に応じた形態

で提供することを、本研究では活動の中心に据えています。

具体的には、地域に伝来する古文書や絵図の調査と成果報告を基本とし、近年はもっともわかりやすく伝わりやすい媒体として、祭礼の映像記録の作成と頒布に力を入れて取り組んでいます。依頼内容によって報告書の作成や報告会の企画にも応じています。



歴史・民俗調査による地域の再発見

- 古文書や絵図を読み解き、地域の歴史文化を知ることができます。
- 地域の歴史文化を記録に残し、これからのまちづくりに活かします。



← 左書所収「古文書調査による地域文化の実践的研究」では、神仏分離、祭礼、由緒書、旧道、地域伝承、社家、古文書などをキーワードにして、本研究における地域調査活動の内容を紹介しています。
具体的には唐原(福岡市東区)の祇園山笠、八所宮(宗像市吉武)の社家文書などを取り上げています。

2023年は4年振りに各地で祭礼が通常通り行われました。地域の活気が祭礼にみなぎり、祭礼文化が地域を育んでいることを実感しつつ、調査にあたることができました。
東京や千葉の祭礼を調査する機会にも恵まれ、神輿の担ぎ方や山車の曳き方など、地域性を体感することもできました。→



期待される活用シーン

- 地域の歴史や文化を再発見し、祭礼を子どもたちの教育や地域の啓発活動につなげたい。



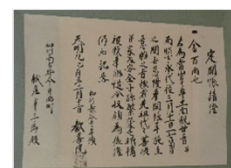
祭礼の準備段階から調査に入り、地域活動として映像に記録します。報告会や上映会の依頼に応じます。



- 地域に伝わる祭礼を、県や市の指定文化財に認定し、今後の保護・育成につなげたい。



古文書や絵図を調査し、地域の歴史文化を明らかにした報告書や冊子を作成します。



その他の研究テーマ

- ・ 町並みや旧道に関する古文書・絵図と現状との比較調査
- ・ 市町村史など地域の歴史文化に関する執筆活動